

Umusun lab. Impact Report

株式会社うむさんラボ 2024-2025 インパクトレポート



UmuSun lab.

K-three
ケイスリー株式会社

DIO
DESIGN.
INNOVATION.
OKINAWA.

【わたしたちの目指す地域の姿】

沖縄らしい自律共創型社会「株式会社沖縄県」の構築
～豊かさを分かち合える、逞しくて優しい経済の循環を生み出す～



目指すのは「株式会社沖縄県」

それは自律共創の精神で、県民一人一人がワクワクしながら育んでいく「新しい沖縄の在り方」。

沖縄のさまざまな社会課題をビジネスの力で解決しながら、「ありのままでいいよ」「ありがとう」「分かち合おうね」の言葉に溢れたあたたかい社会を想像しています。

企業の枠、セクターの枠、世代を超え、県民も巻き込み、世界に誇れる「沖縄らしい経済と社会」を創造しよう。

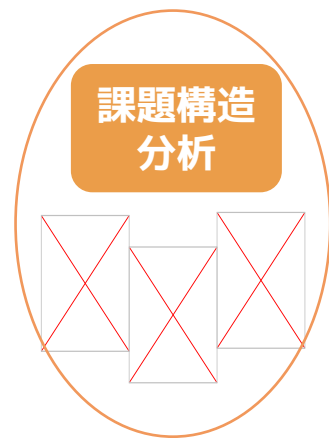


UmuSun lab.

複雑に絡む社会課題の全体像をときほぐし

根本的な課題解決に向けて

みんなで考え、みんなで協働する



コンソーシアムで
活用

オープンソース化



地域全体で
活用

課題に向き合うひとり一人から話を聞き 課題構造を分析

• インタビュー：71団体104人
• ワークショップ：4回

※期間は2024年9月～2025年1月の約4か月間

※分析は主にシステム思考を活用

※並行してエビデンスも整理

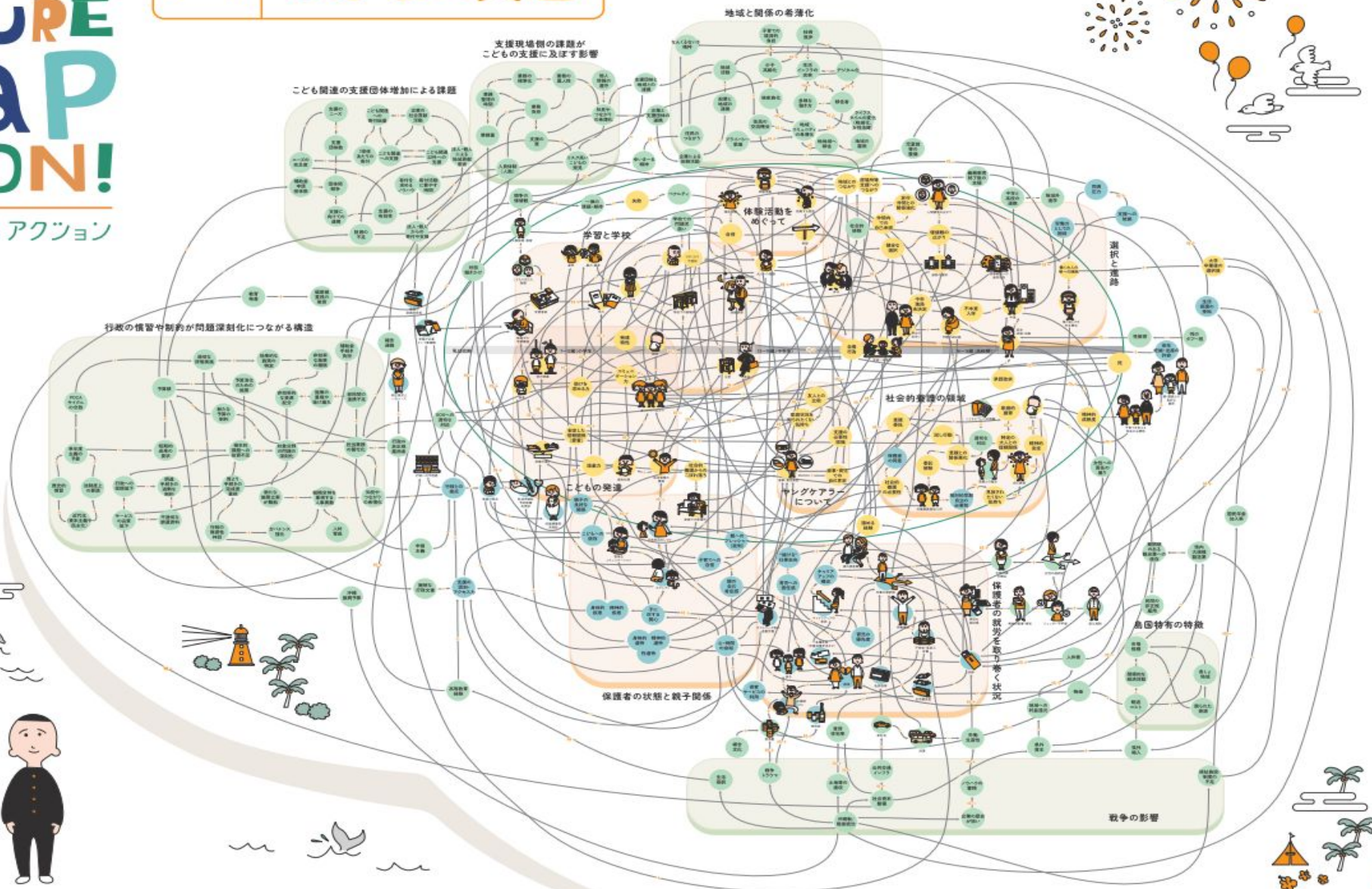


OkINAWA FUTURE Map Action!

沖縄みらい地図アクション

- 子ども 保護者 社会的要因
- 子どものライフステージ
- 矢印中の記号について
 - ↑ 増える、増える、減ると減る
 - ↓ 増える、減る、増える
 - ⌚ 時間をかけて影響する

テーマ こどもの貧困



テーマ

起業支援

起業家 支援者 社会的
要因



矢印の中の記号について

➕ 増える、増える、減ると減る

➖ 増える、減ると減る、増える

⌚ 時間をかけて影響する

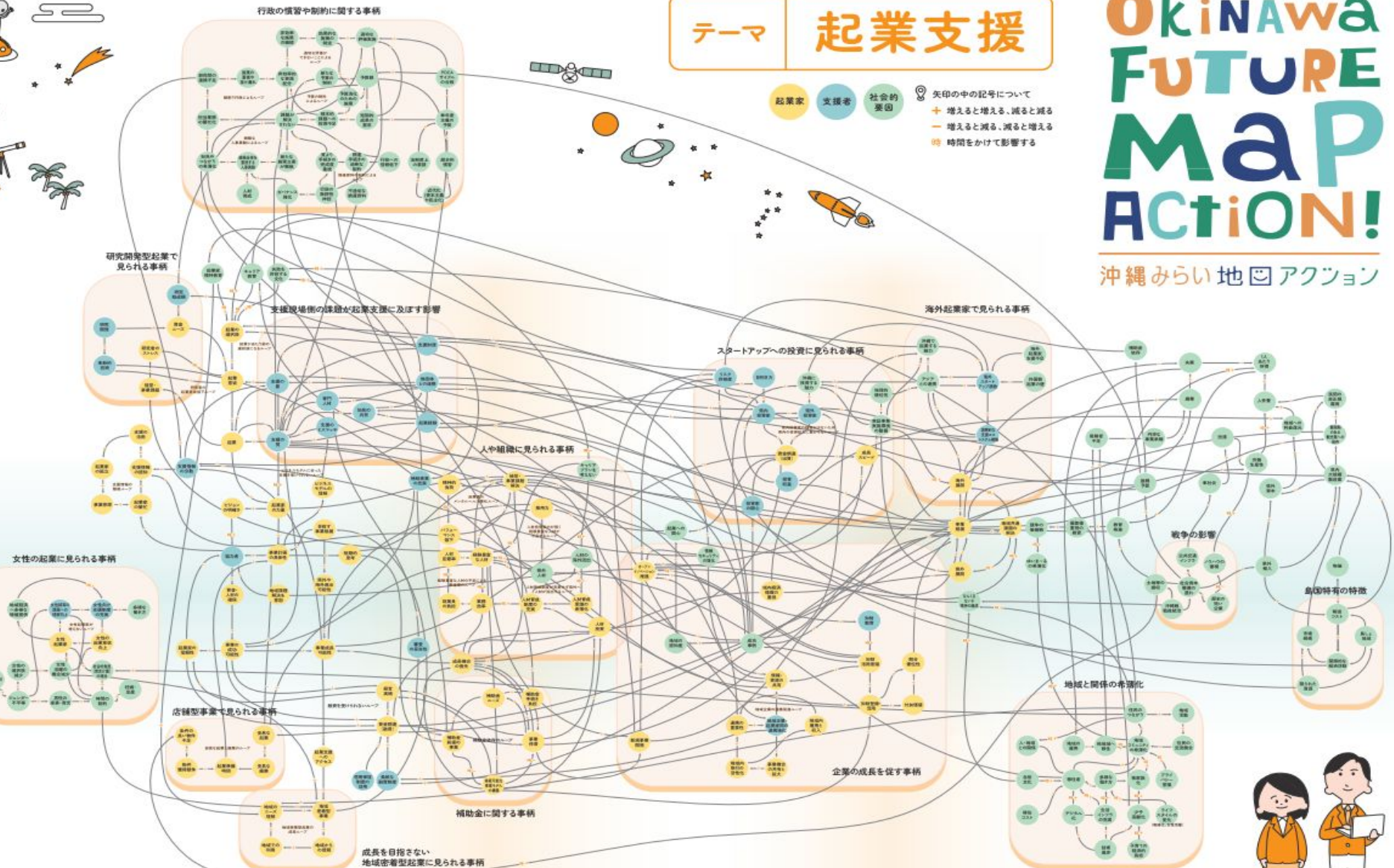
**OkINAWA
FUTURE
Map
Action!**

沖縄みらい地図アクション

スタートアップ

共通

スモールビジネス



創業前（ブレイド〜シード）

創業期（シード〜アーリー）

成長期（ミドル〜レイター）以降



【参加者の声】

- 「みらい地図、とてもいいと思いました。今は複雑な絡みですが、これをひもといていくと**何か新たな視点が生まれるのでは**と感じます」
- 「地図を囲みながら、それぞれの立場で奮闘されている皆様と**絆を結ばせていただいた事が、唯一の解決策で希望**なんだと改めて感じた」
- 「**誰かがやらなければいけないけれど、誰もできなかったこと**を手がけてくださったと思います。現場と一緒に流動する地図になるでしょう。」
- 「**みんなで考えること**で自分の活動に取り込めそうなものや連携が広がると感じました」
- 「これだけ様々なジャンルの多くの方々が日々一生懸命活動されていることが知れて、**色々な意見があり、仲間がたくさんいるんだ。もっと頑張ろう！やワクワクを感じられたのでうれしかったです！**」

うむさんラボのTOC（Theory of Change）



UmuSun lab.

2025.2.26ver.

【Theory of Problem(現状の社会全体の課題)】

沖縄全体として地域経済の脆弱性やイノベーション不足が課題となっている。資金や政策がハード面に偏り、社会性の高いソフト面への取り組みに対する優先度が低い。また、企業や団体の自律経営意識が低く、組織基盤の弱さが中長期的成長を妨げている。さらに、セクター内外での競争や連携不足が相互協力の阻害要因となり、沖縄全体の発展を難しくしている。

1) 地域経済の脆弱性

沖縄全体として「稼ぐ力」が十分に育成されておらず、持続的な経済成長を支える産業やイノベーションが生まれにくい状況にある。

2) 資金や政策の偏り

資金配分や政策支援がハード面（インフラ）に偏り、地域社会や人材育成といったソフト面への投資が不足している。また、経済合理性だけでは解決できないような、社会性の高い取り組みに対しての優先度が低い状況である。

3) 自律経営の意識と組織基盤の弱さ

県内の企業や団体が、自らの力で経営を推進する「自律」の意識と体制が十分に醸成されておらず、組織基盤の脆弱さが課題となっている。これにより、中長期的な視点での成長が難しくなっている。

4) 共創と連携の欠如

セクター内では競争や派閥が目立ち、セクター間の連携も不足しているため、地域全体としての相乗効果が得られない状況である。他者との協力や相互尊重が十分に機能していない現実がある。

これらの課題は、沖縄の未来を切り拓く上で大きな障壁となっており、持続可能で調和の取れた地域社会の実現には、それぞれに対する具体的な解決策が必要とされている。

【Theory of Change(変えたい社会の理想の姿)】

沖縄らしい自律共創型社会「株式会社沖縄県」の構築 ～豊かさを分かち合える、遅しくて優しい経済の循環を生み出す～

「株式会社沖縄県」のマインドの醸成と国内外コミュニティとの繋がりが育まれていく。調和・平和を軸にした地域発展の「人・事業・仕組みづくり」の学びと繋がりが醸成され、一人ひとりが世界における沖縄や日本（日本人）の役割を考え、自分事になっていく。

1) 強い経済基盤の形成

「稼ぐ力」を持つ多様な産業が育ち、革新的なアイデアや技術が生まれる環境を整えることで、地域経済の安定と成長を実現する。

2) バランスの取れた資金と政策の活用

ハード面とソフト面の両輪での発展戦略を策定し、経済性と社会性を兼ね備えた政策によって、地域全体が調和的に発展する。また、経済合理性だけでは解決困難な社会課題に対しても経営資源が集まるような、相互協力・支援の体制ができる。

3) 自律した経営の意識醸成と組織基盤の強化

県内企業や団体が自律的かつ持続的な経営を実現できる意識を醸成し、組織基盤を強化することで、沖縄全体が自律共創できる社会になる。

4) セクター間の共創と連携

競争ではなく、共創できる体制を築き、ゆいまーるの精神でセクターや役割を超えた連携を促進し、「未来の沖縄をより豊かにしていく」という共通の目的に向けてそれぞれの活動を尊敬し合いながら取り組む文化を醸成する。

これにより、沖縄は人々が安心して暮らせるだけでなく、多様な価値観を受け入れ、共に繁栄する地域社会を実現する。

【Theory of Problem】

沖縄全体として地域経済の脆弱性やイノベーション不足が課題となっている。資金や政策がハード面に偏り、社会性の高いソフト面への取り組みに対する優先度が低い。また、企業や団体の自律経営意識が低く、組織基盤の弱さが中長期的成長を妨げている。さらに、セクター内外での競争や連携不足が相互協力の阻害要因となり、沖縄全体の発展を難しくしている。

【Theory of Change】

沖縄らしい自律共創型社会「株式会社沖縄県」の構築 ～豊かさを分かち合える、遅しくて優しい経済の循環を生み出す～

「株式会社沖縄県」のマインドの醸成と国内外コミュニティとの繋がりが育まれていく。調和・平和を軸にした地域発展の「人・事業・仕組みづくり」の学びと繋がりが醸成され、一人ひとりが世界における沖縄や日本(日本人)の役割を考え、自分事になっていく。

【活動とアウトプット】

沖縄をより豊かにする新たな「事業」の創出

- ソーシャルビジネスアカデミー
- 県内企業向け経営伴走サポート
- インパクトファンドの組成・運営

事業創出にチャレンジする「人財」の育成

- 社会起業家育成プログラム
- ミチシルベ&ゆいという教育

持続可能な「仕組み」としてのエコシステム構築

- コレクティブな取組の事例づくり
- 自律共創の環境構築とコミュニティ形成

【初期アウトカム】
2020～2023

- ソーシャルビジネスの考え方と取り組みを沖縄に広める。
- 経営体制の強化に取り組もうとする県内中小企業が増える。

- 沖縄の社会課題に対して、ソーシャルビジネスでチャレンジする社会起業家を育てる。
- 学生や社会人に対して、ソーシャルアントレプレナーシップ教育を広める。

- うむラボ自ら、セクターを超えたパートナーシップで社会課題の解決を目指すソーシャルビジネスの事例を創る。
- セクター、役割、世代を超えて交流する場ができる。

【中期アウトカム】
2024～2026

- 沖縄発のソーシャルビジネスの成長事例が生まれ、ロールモデルとなる。
- 自律的な経営体制を整備した県内中小企業が増える。

- 沖縄で社会起業家のロールモデルができ、様々な社会課題の領域に対して関心を持ってアクションする人が増える。
- 社会での自分の関心と役割をミチシルベとして見つけて行動する人が増える。

- 沖縄の様々な社会課題に対して、コレクティブインパクトを創出する体制ができ、成果が「見える化」している。
- 単なる交流の場ではなく、社会起業家や経営者たちが学び合い、つながるコミュニティができる。

【長期アウトカム】
2027～2030

- 沖縄をより豊かにするソーシャルビジネスが増加し、インパクトが拡大する。
- 県内中小企業の経営状況がよくなり、社員の暮らしも向上する。

- 沖縄から社会起業家が増え、様々な社会課題に対してビジネスでチャレンジする人が増える。
- 沖縄の未来を自ら創る主体性を持った人が増える。

- より難しいテーマに対しても経営資源が集まるような、相互協力・支援の体制ができる。
- セクターや役割を超えて、沖縄の様々な社会課題を解決するために行動するコミュニティ&プラットフォームができる。
- ミチシルベが世界の架け橋となる「万国津梁の祭典」として県外や海外からも多くの沖縄・日本ファンが集まる。

【最終ゴール】

沖縄らしい自律共創型社会「株式会社沖縄県」の構築 (豊かさを分かち合える、遅しくて優しい経済の循環を生み出す)

「株式会社沖縄県」のマインドの醸成と国内外コミュニティとの繋がりが育まれていく。調和・平和を軸にした地域発展の「人・事業・仕組みづくり」の学びと繋がりが醸成され、一人ひとりが世界における沖縄や日本(日本人)の役割を考え、自分事になっていく。

【インパクト指標】

事業

ソーシャルビジネスの創出数

ソーシャルビジネスの自走数
(自律的に継続できる事業数)

人財

社会起業家・経営者の輩出数

共創コミュニティに参画する
社会起業家・経営者の数

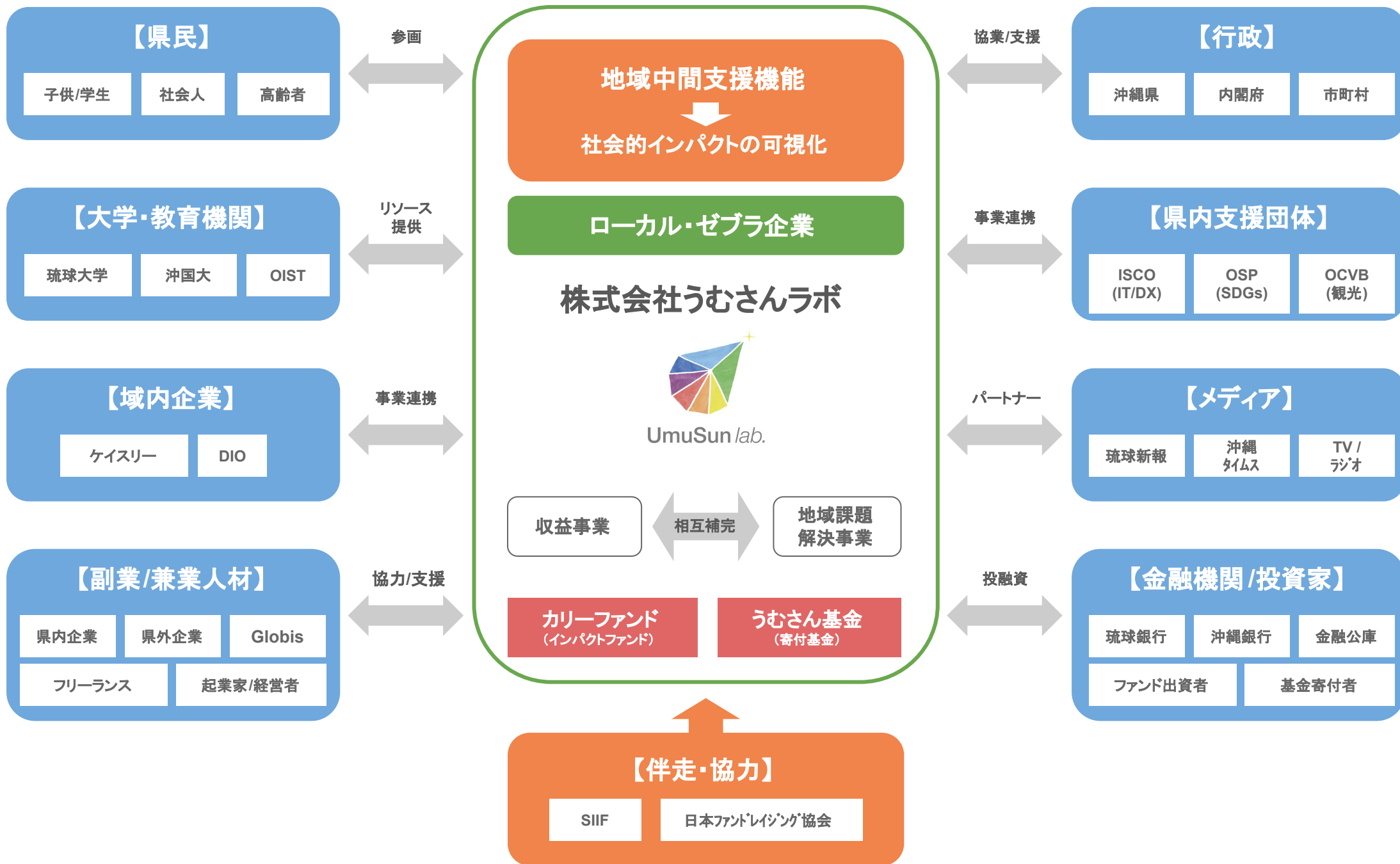
仕組み

自らのソーシャルビジネス事例

共創コミュニティパートナー数

ミチシルベの参加者数
と共創プログラム数

「株式会社沖縄県」のエコシステム全体像



みんなで「株式会社沖縄県」を共創体感する
カンファレンス&フェスティバル



ミチシルベ

集い、響きあい、踏み出す。
心地よい未来へ。

「ミチシルベ2025」の共創コミュニティ（県外）

北海道	L47(えぞ財団) NoMaps 道雪解議	京都	Community Based Economy 京都流議定書 BEYOND
秋田	森山ビレッジ	広島	観光人クエスト ピースダイアログ
福島	一般社団法人 Nomaラボ	宮崎	こゆ財団
長野	Local Innovation Initiatives	鹿児島	薩摩会議
全国	ENJIN(ボーダレス・ジャパン) ZEBRAHOOD(Zebras and Company) POTLUCK YAESU ミラツク(NPO法人ミラツク) esse-sense(株式会社エッセンス) IMPACT SHIFT	九州	ONE KYUSHU サミット
		海外	Just Be Capital(バンクーバー)

ミチシルベ2025 参加者数：約1,000人

ミチシルベ：594人
マイプロ：230人
スタッフ：53人
アーティスト：100人





セッション：20+
スピーカー：50+





プレゼン | アワード





歌 | 踊り | 心





ミチシルベ マルシェ





クリエイティブ

「株式会社沖縄県」のマインドの醸成と
国内外コミュニティとの繋がりが育まれていく。

調和・平和を軸にした地域発展の
「人・事業・仕組みづくり」の学びと繋がりが醸成され、

一人ひとりが
世界における沖縄や日本（日本人）の役割を考え、
自分事になっていく。

世界の架け橋となる「万国津梁の祭典」として
県外や海外からも多くの沖縄・日本ファンが集まる
カンファレンス&フェスティバルになっている